

## 令和4年第17回渋谷区教育委員会定例会会議録

- 1 開会日時 令和4年9月1日（木）午前10時00分
- 2 閉会日時 令和4年9月1日（木）午前10時40分
- 3 場 所 渋谷区役所4階教育委員会室
- 4 出席者

### （委員）

教育長 五十嵐 俊子	委員 坂本 真理子
委員 大日方 邦子	委員 平岩 国泰
委員 松澤 香	委員 松本 理寿輝

### （事務局職員）

教育委員会事務局次長	菅原 幸信
教育DX政策推進特命部長	篠原 保男
教育委員会事務局参事	（教育DX政策推進特命部長兼務）
学校施設整備調整担当課長	堀江 崇
学務課長	横手 麻理
教育指導課長	渡辺 浩一
教育センター所長	小林 繁
地域学校支援課長	小林 由江
副参事（特命担当課長）	（教育センター所長兼務）

（書記） 小山 夏紀 伊藤 伸雄

- 5 会議の概要 別紙のとおり

## 協議

- (1) 渋谷区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について

[資料1：令和4年度渋谷区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書（評価対象：令和3年度）]

## 報告

- (1) 本町幼稚園について

[資料2：本町幼稚園について]

## その他

- (1) 令和5年度予算編成方針について

## 議事運営等

- 令和4年第17回教育委員会定例会を開会
- 議事録署名に平岩委員を指名

## ■ 教育長報告要旨

○ まず、8月21日には、中学校PTA連合会のスポーツ大会が渋谷区スポーツセンターで開催された。小学校同様、3年ぶりの開催に経験者も少なく手探りでの準備となった。参加数は、バレーボール6校6チーム、卓球6校12チームで、各校の校長も応援に駆け付け、声援の代わりに大きな拍手を送っていた。区長もバレーボールに選手として参加し、活躍されていた。中止していた2年間に卒業したPTAも参加し、PTA活動が止まっていた時間を吹き飛ばすように楽しむ姿が見られ、今後のPTA活動が活性化する、良い親睦の機会になった。次に、8月22日から26日の5日間、フィンランド共和国児童・生徒派遣研修が行われた。選考を通った各学校を代表する児童・生徒26人が研修に参加した。今年度は新型コロナウイルス感染症等の理由からフィンランドに派遣はできなかったが、フィンランドに在住する日本人の方を講師に招いたり、フィンランド大使館を訪問したりする中で、フィンランドの自然、生活、食事などの様々な文化に触れ、子供たちはとても興味を持って話を聞き入っていた。また、研修の後半は現地の学校とオンラインでつなぎ、グループごとに日本とフィンランドの学校の様子などを意見交換した。子供の中には、英語で積極的にコミュニケーションを取る姿も見られた。8月30日からは、夏季休業が終わり、授業が始まった。児童・生徒の感染症確認の報告は、現在も日々続いている。こうした環境もあいまって、この時期は、児童・生徒の心は不安定になる場合が考えられる。教育委員会としては、学校と連携しながら、感染症対策の徹底を図りつつ、子供たちの心身の状況や変化に注意を払い、児童・生徒やその保護者の心にしっかり寄り添った対応をしていく。最後に、令和4年第3回区議会定例会が9月7日に開会され、7日から9日が本会議となる予定である。

## ◆ 協議 1

渋谷区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書について

### ◇ 説明要旨

(※別紙資料1に基づき教育委員会事務局参事が説明)

- 「令和4年度 渋谷区教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書」案について説明する。こちらについては、8月4日の定例会において、外部評価欄が空欄のものを報告したが、この度、学識経験

者からの意見を取りまとめたものを、改めて協議するものである。なお、学識経験者からの意見については、既に、本人の確認をいただいたものとなっている。報告書案の概要について説明する。今回の報告書は、令和3年度実施の事業を点検・評価の対象としている。目次に続き、報告書1ページは、例年同様、趣旨を記載し、実施方法については、2ページ(1)に記載のとおり、基本構想、長期基本計画、実施計画における主要施策のうち、18事業について点検・評価を行うことを記載している。また、法の規定により、学識経験者の知見の活用を図ることとなっていることから、(3)のとおり、昨年度と同様に、学校法人渋谷教育学園学園長田村哲夫先生と、國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授鈴木みゆき先生にお願いし、7月28日に意見をいただいている。3ページであるが、令和3年度の渋谷区教育委員会の活動における特徴的な取組として、東京2020パラリンピック競技大会学校観戦事業や、シブヤ科、渋谷ワンダフル給食プロジェクト、学校施設の老朽化対策、いじめ防止等の取組の5項目を述べている。4ページには、渋谷区教育大綱を掲載し、5ページから11ページにかけて、令和3年度における渋谷区教育委員会の教育目標と基本方針を記載している。12ページ、13ページであるが、対象事業について、基本構想等を踏まえて記載しており、表の項目は、長期基本計画、実施計画の項目、事業名及び所管を記載している。14ページ以降は、点検・評価シートである。点検・評価シートについては、これまで教育委員から指摘いただいた点を踏まえ、見直しを図っており、例えば、評価対象年度の前後の年度における事業計画の記載や、その実施状況をアウトプット指標として記載し、評価対象年度の前後の比較をしやすいよう記載しているほか、今回は新たに、「前年度からの改善・変更点」として、令和2年度の実績を踏まえ、令和3年度に見直した事項等を記載している。今後の流れであるが、本日協議をいただき、その結果を踏まえて、次回の定例会に議案として提出させていただきたいと考えている。

—◇質疑応答

(平岩委員)

○全体として年々良くなっていると感じる。アウトプットが定量的に書かれている点も良いと思う。また、子供たちのどのような力が伸びたのか、地域の方の気持ちがどのように変わったのかなどを、アウトカムとして記載できると更に良くなると思う。ただ、改めてアンケート等を取るの難しいと思うので、今ある数字を使えば良いと思う。例えば、放課後クラブの参加人数など、既に捉えている数字をアウトカムに入れてみるのが考えられる。

(坂本委員)

○コロナ禍での職場体験学習の実施などから学校の大変さを感じた。オブザーバーとして参加したが、田村先生がシブヤ科について興味を持っており、区長が先頭になって授業の講師をするのはどうかという発想がすごく良かった。また、学識経験者の意見を受けて終わるのではなく、来年度の事業に反映して計画を立てていくことが重要だと考える。

(平岩委員)

○29ページ教員の働き方改革の推進について、勤怠管理の全面稼働は今年度からという理解で合っているか。また、残業時間の状況について数字を教えてください。

(教育指導課長)

○校務支援システムの仕組みが様々であり、一挙に全面稼働することができなかったため、昨年度稼働しきれなかった部分については、今年度から稼働している状況である。教員の働き方改革については、令和元年度に調査をしており、月45時間以上働いている教員は減少傾向にある。

(平岩委員)

○まだ全教員の勤怠管理ができていないということか。また、残業時間については、別の機会に平均時間や学校別の数字を明らかにしても良いと思う。

(教育指導課長)

○勤怠管理はできているが、校務支援システムでの出張の申請等について、やりやすい方法を業者と調整しながら進めている。

(大日方委員)

○全体的に非常に読みやすくなっていると感じた。34ページの鈴木先生の意見の後半部分について、補足説明をお願いしたい。

(学校施設整備調整担当課長)

○子供たちがエレベーターを使用しているときに、災害に遭った場合、普段から階段を使っていることで、災害時に柔軟に対応できるという意味だと考える。

(大日方委員)

○学校内にエレベーターがあっても、防災減災の観点から、普段から階段を使う決まりにした方が良いという趣旨なのか。

(学校施設整備調整担当課長)

○車いす利用者等、必ずエレベーターを使わなければいけない場合を除き、基本的には普段から階段を使うという趣旨だと考える。

(大日方委員)

○この表現だと鈴木先生の発言の趣旨が分かりにくいので、少し表現を足しても良いと思う。また、渋谷の子供たちの場合、高層階のマンションで暮らしていることも多いので、エレベーターを使わなければ安全であり、エレベーターは特別な配慮を必要とする人だけが使うものだという考えが、教育的な意味で効果があることなのか考えた方が良いと思う。大人が決めたエレベーターの使用に関するルールを守っていれば良いというだけではなく、どのような使い方が良いのか、なぜそのルールがあるのか、子供たち自身で考えられるように育ててほしい。

(教育委員会事務局参事)

○鈴木先生の趣旨としては、複合施設の中で子供たちにエレベーターを使用させていない事例も見受けられることから、一般的な事例を取り上げたものだと考える。今後、複合施設化を図っていく中で、当然バリアフリーも考慮しながら、建物をうまく使った形での防災減災教育に取り組んでいく必要があると考える。ご指摘いただいた表現については、鈴木先生にも確認の上、修正したいと思う。

(松本委員)

○昨年度はコロナ禍で大変だったと思うが、それに向き合っ前向きに対応されている内容が報告書に記載されているので、良い報告書だと感じた。また、区の組織改正により、今後、基本方針4が無くなってしまいが、現在、力を入れている部活動改革や渋谷ユナイテッドに関する内容は、この報告書にどのように関連するのか教えてほしい。

(教育委員会事務局参事)

○渋谷ユナイテッドに関しては、昨年度は試行的に実施していたこともあり、今年度から本格的に稼働している。来年度の点検・評価では、渋谷ユナイテッドの取組や教員の負担軽減について、記載していくことになると思う。

(松本委員)

○子ども家庭部を巻き込んだ取組をされていたことや、公立・私立の保育園に

声を掛けていたことは、全体の就学前教育プログラムを充実させる上で、大事な取組だと思うので、17ページの「課題・今後の取組」に記載しても良いと思う。また、14ページの就学前オープンスクールの「課題・今後の取組」に、鈴木先生の発言にもあるように、国の架け橋プログラムに関する記載を加える必要性を感じた。そうすることで、昨年度の課題から今年度のアクションにつながると考える。

(松澤委員)

○俯瞰的に見られる形になったので、とても良くなったと感じる。37ページのいじめ防止対策の取組の「課題・今後の取組」について、いじめの定義とその報告の関係性が課題であると認識しているので、改めて教職員の方々には定義をご理解いただいた上で、しっかりご対応いただきたい。

(坂本委員)

○デジタル教科書が進むほど、紙の本に触れる教育が大事になると考える。今年度から図書館に係る事業は区長部局に移管されたが、子供の教育活動という点では教育委員会が所管になるので、是非力を入れていただきたい。

(松澤委員)

○デジタルの本も非常に便利だと思うが、紙の本にも、自分の興味関心がある分野以外にもランダムにアクセスできる可能性があり、また、読んだ後の達成感など、子供の教育には非常に大事だと思うので、デジタルの良さを生かしながら両立をお願いしたい。

---◇議事結果 -----

○協議終了とする。

◆報告 1

本町幼稚園について

---◇説明要旨 -----

非公開

◆その他

(1) 令和5年度予算編成方針について

---◇説明要旨 -----

(教育委員会事務局次長)

○8月24日付けで、「令和5年度予算編成方針について(通達)」が区長名で

発出された。前文の3つ目では、「区制施行90周年という節目の年を迎えた本区は、住民に最も身近な基礎自治体として、子育て・教育環境の整備や超高齢社会への対応、まちづくり、学校施設を始めとした公共施設等の長寿命化対策にもしっかりと取り組むとともに、次の10年を見据え、スマートシティの推進や脱炭素社会の実現等、新たな課題にも積極的に挑戦し、区民のウェルビーイングの更なる向上に取り組んでいかなければならない」と記載されている。次に、3ページ「2 重点項目」は、基本構想の政策分野別に記載されている。教育に関係するところは、4ページ「(1) 子育て・教育・生涯学習分野」であり、アに「学校施設長寿命化計画の実現に当たっては、保護者等の関係者との合意形成を丁寧に図りつつ、着実に個別計画の策定を進めていくこと。また、仮設校舎においては、「未来の学校」の実現に向けたモデル構築を念頭に、最先端技術の積極的な導入を図ること」、イに「スクールカウンセラーは、児童・生徒へのカウンセリング、教職員・保護者への助言を行い、いじめ・不登校の未然防止を図る等、学校の教育相談体制において大きな役割を担っていることから、教育ダッシュボード等を活用して効果を検証した上で、適正な配置基準を検討すること」が記載されている。また、5ページ「(3) 健康・スポーツ分野」では、ウに「学校部活動改革については、地域移行化のロードマップを構築し、一般社団法人渋谷ユナイテッドと連携して計画的に進め、民間人材の活用による指導の質の向上と教職員の負担軽減を図るとともに、生徒のニーズを踏まえ新たな種目の実施にも取り組むこと」が記載されている。7ページ「3 事務事業の見直しについて」では、昨年度から導入された枠配分方式の継続、多様な主体との協働や民間活力の導入、委託項目・仕様の見直し、渋谷サービス公社や社会福祉協議会、社会福祉事業団等との密接に連携などが挙げられている。8ページ「4 経費の見積もりについて」では、新規事業やレベルアップ事業、既存事業、施設の整備・改修等について、それぞれ適正な予算要求を求められている。9ページ「6 歳入の確保について」では、「新たな歳入確保策について、全所管が知恵を絞ること」とされている。全文については、お目通しいただきたい。この予算編成方針を踏まえて、令和5年度予算要求作業を各所管で進めているところである。

—◇質疑応答 —————

○なし。

議事終了 閉会



上記記載の記録について相違ないことを認め、ここに署名する。

教育長 五十嵐 俊 子

委員 平 岩 国 泰